

**頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム
平成 26 年度採択事業にかかる事後評価結果**

整理番号	R2609
代表機関名	大阪市立大学
主担当研究者所属部局	理学研究科
関連研究分野	幾何学
主担当研究者	大仁田 義裕
事業名	対称性, トポロジーとモジュライの数理, 数学研究所の国際研究ネットワーク展開

I これまでの事業実施により得られた成果

(1) 人的交流を通じた国際研究ネットワークの構築・強化についての評価

評 点 4
コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・計画どおり 12 名（助教 1 名＝336 日、ポスドク 6 名＝351 日、303 日、328 日、328 日、324 日、332 日、その他（特任助教）1 名＝366 日、その他（客員准教授）3 名＝326 日、300 日、307 日、その他（客員研究員）1 名＝315 日）を派遣した。 また、300 日未満の者が 1 名（ポスドク 1 名＝88 日）となった。 ・計画していた 7 名の招へいに対し、最終的に 16 名の招へいとなった。 ・連携研究機関からの招へいに合わせて国際研究集会を開催するなど当初の計画を果たしており、特に 2016 年 9 月には複数の連携機関から中心的研究者を招へいし、代数幾何、解析、数理物理にまたがる異分野交流を目指した国際会議も開催されていることから評価できる。 ・先の頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム「数理と物理の深化と展開、数学研究所を拠点とする国際ネットワークハブの形成」を基盤としたものと位置付けられるが、前回のプロジェクトの成果を良く継承し、十分な成果に結びつけたものと高く評価できる。 ・研究グループ間の相互の交流、連携が今後の課題と思われる。 <p>以上のことから、期待される成果は十分達成していると評価できる。</p>

(2) 国際共同研究課題についての評価

評 点 4
コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・若手研究者派遣、海外研究者の招へいとも極めて活発に展開され、多数の学術論文を含む十分な量の研究成果として結実した。 ・個々の研究では連携研究機関の研究者との連携がなされ、派遣を生かした研究実績が出てきている。特に可積分系と表現論、代数幾何において大きな成果が得られており、成果公表では若手研究者の一人は弦理論に関連する数学と物理の合同の国際会議に招へいされ、また別の若手研究者は最新研究に関する著書の執筆をほぼ完成させるなど大きな実績を上げている点が評価できる。 <p>以上のことから、期待される成果は十分達成していると評価できる。</p>

II 今後の展望

評 点 3
コメント
<p>・若手派遣先の複数の研究機関から今後の連携に関する積極的な返事を得ており、また今回のプロジェクトに神戸大学、早稲田大学が加わったことで、今後の可能性の幅も広がったことなどを考慮すると、発展の見込みは十分にあり、国際ネットワークをさらに維持発展されることが期待される。検討中である次のプロジェクトにも期待したい。</p> <p>以上のことから、今後の展望は概ね高く評価できる。</p>

総合的評価

評 点 4
コメント
<p>・若手研究者全員が研究成果を上げて論文を発表あるいは執筆中であり、中途あるいは事業終了後に次のステップ（次の職）に進んでいる者もいることが高く評価できる。</p> <p>・事業計画調書には異分野間の融合的な数学研究の活性化が目標に書かれており、可積分系、代数幾何、表現論ではその成果が伺えるが、これが全体に広がって行くことが今後の課題であると考えられる。中核となる大阪市立大学数学教室は中規模であるが、神戸大学、早稲田大学の研究者を加えることで計画に厚みが増した。公立大学を代表機関とした国内研究機関によるプロジェクトである点からも評価に値する。教室の得意分野を生かしたプロジェクトで研究内容も発展性があり今後の継続が望まれる。</p> <p>以上のことから、総合的に高く評価できる。</p>

※評点に対する標語は下記の通り。

【Ⅰ（１）、（２）】

4=十分達成している 3=概ね達成している 2=ある程度達成している 1=ほとんど達成していない

【Ⅱ、総合的評価】

4=高く評価できる 3=概ね高く評価できる 2=ある程度評価できる 1=ほとんど評価できない